

# 【社会科・中2 地理的分野・「日本の諸地域～近畿地方～」】①

## 本時のねらい

阪神工業地帯における工業の発展と環境保全とを両立した複数の取組の共通点や相違点を話し合う活動を通して、持続可能な開発を視点に阪神工業地帯が変容したことを理解できるようにする。

## ICT活用のポイント

- ・資料等から読み取れる工業の発展の様子や、工業の発展と環境保全とを両立した取組について、**画面上の付箋に記す。**
- ・問いに対するグループの考えや、一人一人が表現した「本時のまとめ」「振り返り」を、ICTの即時性を生かして、**全員で共有する。**

### 【つかむ】

「工業出荷額の内訳」「1960年代の工業地帯」の資料等を基に、本時のめあてをつかむ。

### 【追究する】

阪神工業地帯の工業出荷額の変化や、大阪府の工業用水の水源を示した資料から解決に必要な情報を集め読み取る。

学級全体で、整理した情報を基に、近畿地方の工業と環境保全はどのように両立しているか考察をする。

### 【まとめる】

阪神工業地帯における工業の発展と環境保全のポイントについて、まとめるとともに、学習の振り返りをする。

## 事例の概要

- **大型電子装置**で、阪神工業地帯の特色や公害が起きているときの様子がわかる資料を映し出す。

### 【活用場面①】

<めあて>

阪神工業地帯では、工業の発展と共に生じた環境問題に対して、どのように取り組んできたのだろうか。

## 【事例におけるICT活用の中心場面】

- 一人一人が学習シートに、統計及び写真資料から読み取れる工業の発展の様子や、工業の発展と環境保全とを両立した具体的な取組について、**画面上の付箋に記す。**

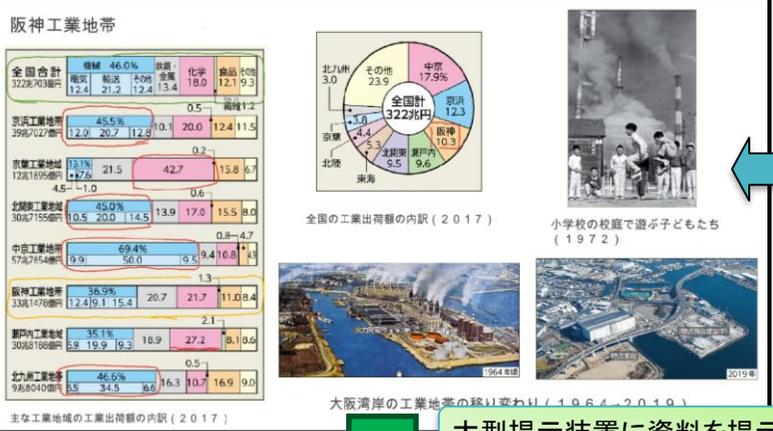
### 【活用場面②】

- 生徒が考え、表現したことを**共有ソフト**を用いて、確認し合う。  
表現すること ・本時のめあてと正対する「まとめ」  
・本時の「振り返り」

### 【活用場面③】

# 【社会科・中2 地理的分野・「日本の諸地域～近畿地方～」】②

## 【事例におけるICT活用の主な場面①】



【めあてをつかむ際の課題意識の醸成の場面】  
大型電子装置で示した資料

- ・主な工業地域の工業出荷額の内訳
- ・大阪湾岸の工業地帯の移り変わり (1964～2019)
- ・小学校の校庭で遊ぶ子どもたち (1972) 等

工業の発展  
や変化に着目  
環境問題  
に着目

工業の発展と環境問題に対する課題意識をもたせることができていた。

「めあて」の設定へ



## 【事例におけるICT活用の主な場面②】



教師による支援・助言(机間指導)【重要】



## 【事例におけるICT活用の主な場面③】

全員でまとめを、共有・整理する。

生徒

端末に一人一人が考えた「まとめ」を記録

全員のまとめを端末で共有

学習プリントも併用

まとめ

1960年は、大気汚染や地盤沈下などの公害などがあり工業を移転した。現在ではソーラーパネルなど持続可能な開発が進められている

まとめ

整理した情報を基に、近畿地方の工業と環境保全はどのように両立しているかについて考察をする。

1960年代と比較すると、現在行われている環境問題への取組には、共通してどのような視点が入り入れられているか。

大型提示装置に問いを提示

自分の考え  
環境に優しい  
一人一人が考え、端末に表現

グループの考え  
環境に優しく、持続可能な視点  
グループで考え、端末に表現し、送信

対話

【活用したソフトや機能】 ・学習支援ソフト ・文章作成ソフト ・共有機能